

■第12回「TOTO水環境基金」助成団体一覧

	団体名 (★：新規)	プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
					2017 年度	2018 年度	2019 年度
1	特定非営利 活動法人 白神山地を 守る会★	白神山地の最大の恵で ある良質な水を保全・活 用する活動	青森県	白神山地では、四季を通じたトレッキングなども行われているが、道路の崩落での通行止めが多く、日本初の世界自然遺産であるにもかかわらず、外国人が訪れたい日本の世界遺産では下位に甘んじている。過去に伐採された箇所の杉林に広葉樹を植林し、混合林をつくり、最終的には広葉樹の森にする「ブナの森の復元・再生プロジェクト」として、白神山地の最大の恵である良質な水を保全する活動を実施する。	○	○	—
2	カワラバン	まちの水辺のまなびの場 づくりプロジェクト	宮城県	水環境や生物多様性保全の担い手を育成をする上で、学校などとの連携は不可欠であるが、資金に乏しく専門的な外部講師を依頼することが出来なかつたり、行政の支援制度の制限などによって学びの機会を逃しているケースが増えている。本事業では学校などと連携し、当会の環境学習プログラムを8箇所400名程度に提供することで、学びの機会を積極的に増やすとともに、実施後にアンケートを行いプログラムの改善等に反映していく。	○	—	—
3	宮城県淡水 魚類研究会★	仙台 市民とともに醸成 する水文化復権の流れ	宮城県	かつては広瀬川とその疎水網によって発展を遂げた仙台の水文化の復権を市民とともに醸成し、環境保全や地方創生、震災からの復興に結びつけるため、本川のサクラマスや疎水網のメダカの保全の為に調査研究、市民との協働による保全活動、地域の子供たちを対象とした環境教育、ピオトープ作り、ワークショップ、宿泊ツーリズムといったイベントを展開する。	○	○	○
4	NPO環～WA	1300年の里山の歴史を 未来へ	茨城県	活動エリアとなる里山には県指定保全緑地「矢連緑地環境保全地域」があり、保全が望まれていながらも、自治体の整備が間に合わず、荒れた状態となっている。これまでに実施した植樹地の下草刈りと補植、スギ・ヒノキ林の間伐、竹林整備等の里山整備活動に継続して取組むとともに、体験型環境教育を通して人材の育成を行う。	○	○	—
5	わたらせ 未来基金★	渡良瀬川が繋ぐ上・下流 域環境保全再生プロジェ クト	栃木県	足尾銅山鉱害問題でハゲ山となった足尾山地には、鉱毒溜めと治水の要となった渡良瀬湿地帯がある。足尾緑化推進の継続と、100年を経て生きものの宝庫となった渡良瀬遊水地の生物多様性を高めるための活動を行い、足尾で植樹木の育成に努める。新たな植樹地を設け、実のなる木の育成を促進させ、渡良瀬の低層地帯でより良い環境再生保全を目指す。	○	○	○
6	八千代市ほた るの里づくり実 行委員会	生物多様性の基地として ～目指そう ホタルの自 生～	千葉県	平成27年12月、ほたるの里は、「生物多様性保全上重要な里地・里山500」(環境省)に選定された。都市化する八千代市内において、多様な生物が生息する環境づくりを継続し、シンボルのヘイケボタルの自生をめざす。また、ほたるの里への関心を広げるための広報活動を展開し、イベントをとおして環境を支えるサポーターの拡大を図る。	○	○	○
7	特定非営利 活動法人 森のライフ スタイル研究所	千葉県九十九里海岸防 災林の再生～海岸林の 機能強化をめざして	千葉県	東日本大震災の津波による塩害で失われた海岸防災林を元に戻すための環境活動。海岸防災林の機能回復・強化をめざして活動を続け、これまでに4.6haの再生をつなげて苗木は順調に生長している。残り1.6haのうち12.5%に相当する0.2ha(2,000m ²)を再生し、海岸防災林のもつ公益的機能(飛砂防止や防風、防潮等)の拡大・強化を図る。	○	○	○

	団体名 (★：新規)	プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
					2017 年度	2018 年度	2019 年度
8	白子川源流・水辺の会	白子川源流域の湧水量と水質の回復による水辺環境の再生	東京都	白子川源流域においては、水質汚濁および底質の富栄養化の顕在化に伴い、生物の生息環境が悪化し水生生物が著しく減少している。従来の白子川定例清掃活動に加え、近年の水辺環境の変化について、実態を数量的・統計的に把握して現状を分析し、その結果を地域に発信する。水辺環境の改善に向けて、植物による浄化等、その対応策を検討・試行するとともに、行政との協働作業を通じて抜本的な解決策である「湧水量の復活」の実現を目指す。	○	○	○
9	DEXTE-K	西なぎさ発：東京里海エイド	東京都	葛西海浜公園西なぎさの清掃活動。春から秋に公園内の西なぎさに多く漂着するゴミを清掃する活動を展開する。公園を利用する人たちに心地よくしていただくことと、西なぎさに生息する多様な海洋生物や鳥類の漂流ゴミによる被害を最小限にとどめることを目的とし、西なぎさでコアジサシの営巣・巣立ちが継続されることをバロメーターに、環境保全を展開していく。	○	○	○
10	NPO法人 海の森・山の森 事務局	独自メディアで発信！ 大岡川クリーンアップ大作戦	神奈川県	海洋国日本において、プラスチックを中心とするゴミが河川を通じて海洋に流出し、海の生き物たちが危機に瀕している。そこで陸上とSUP(Stand Up Paddleboard) 合同によるゴミ拾いを毎月2回実践し、さらに参加者を増やして2部隊制として拡げていく。5年後には流域各所に部隊を組織し、「大岡川一斉ごみの日」を設定して横浜市磯子区の全流域で実施する。	○	○	○
11	金山里山の会	水と緑の輝く里山プロジェクト	富山県	射水南部丘陵地里山の樹木は、30～50年木が利用されなくなったため、高木が生い茂り荒廃が進んでいる。原生林化した里山は、光・風が入らず新たな樹木も育たない環境となっており、猪や熊が出る奥山となった。そこで昔のように間伐を実施し、木を薪・茸原木に利用し、広葉樹林に広く光を取り込むことで保水機能の豊かな涵養林の拡大を図る。	○	○	○
12	大富山を愛する会	大富山湿地の涵養と保護及び美佐野街道ふれあいの場所整備	岐阜県	大富山は、水と緑に触れ合える憩いの場所として最高の里山である。湿地帯には貴重な動植物が生育しており、これまで実施してきた環境保全事業に継続して取り組むほか、散乱している倒木を処分してふれあい交流のできる広場を新しく整備し、ホタルの飼育・放流に取り組み、鑑賞会を実施する。	○	○	○
13	一般社団法人 海っ子の森	市民による海のビオトープづくり活動とドローン活用藻場観察	三重県	過去十数年、磯焼け地域の海の生物多様性復元をめざし、海藻の稚苗(アラメ等)の植林をいろいろな工法を開発して行ってきた。新たに市民と協働して海のビオトープ作りを行い、植林活動を1カ所に集中することでより効果の高い海藻林の形成を目指す。また、ドローンを使った空からの藻場の撮影・観察により、安全で実践的な海の環境教育を行う。	○	—	—
14	NPO法人 家棟川流域 観光船	家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスに戻すプロジェクト	滋賀県	野洲市生まれの川、家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを遡上させる「川づくりプロジェクト」は野洲市の街づくり、水環境保全、ひいては観光ビジネスにつながる活動である。琵琶湖で一番おいしい魚ビワマスの漁獲量を回復させるためには、遡上、産卵、繁殖できる川・湖の環境を復活させる必要があり、水源の山～琵琶湖へつながる環境の保全に取り組む。	○	○	○
15	川と海つながり 共創プロジェクト	京都・保津川から世界の海を美しく～内陸部から取り組む海ごみ発生抑制プロジェクト	京都府	近年急速に注目を集めるようになった海ごみの大半は、河川を通じて流出した陸域由来のプラスチック製の生活ごみである。本事業では、保津川や上・下流および海域でのごみの清掃活動と調査活動を通じて、市民参加型の科学的調査をもとにデータを収集する。また、内陸部でも海ごみへの関心を高め、地域間交流プロジェクトを通じて流域が一体となった市民レベルでの海ごみ対策に貢献することを目指す。	○	○	—
16	NPO法人 アンビシャス コーポレーション	「外堀川クリーン作戦」～まちづくりコミュニティ清掃～	兵庫県	歴史と風情のある「外堀川」。都市計画として運河公園を立案し、汚泥の除去などに努め、昭和49年には2級河川に指定された。しかし、それ以降大きな保全も行われておらず、ポイ捨てや不法投棄が多発して環境が著しく悪化し、市民や行政の悩みの種となっている。その課題に切り込み、本来の風情ある憩いの川を取り戻すべく活動をしている。	○	—	—

	団体名 (★：新規)	プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
					2017 年度	2018 年度	2019 年度
17	特定非営利 活動法人 ゴミンゴ・ゴミ拾 いネットワーク	島ゴミプロジェクト ー離島に流れ着く漂着ゴ ミ拾いー	和歌山県 兵庫県	大阪湾に流入する河川を通じ、都市部から大量のゴミが瀬戸内の島に漂着している事実は一般にあまり知られていない。10年間継続してきた友ヶ島での清掃活動に加え、新たに家島での清掃活動に挑戦する。活動範囲を拡大し、人々の参加機会を増やすことで、大阪湾/瀬戸内海のゴミの状況を少しでも多くの人に知ってもらい、都市部に住む人々の意識を高めることで流出ゴミの減量を目指す。	○	○	○
18	特定非営利 活動法人 川塾★	かっぱの川そうじ	徳島県	吉野川は全国でも有数の自然環境を有し、流域の暮らしや文化、産業の発展を支え、子どもの教育の場となっている。しかし、一部の河川敷はごみの散乱が目立ち、景観が損なわれるだけでなく、絶滅危惧種であるシオマネキをはじめ多くの水生生物の住環境が脅かされ、子どもたちの活動においても危険が生じている。そこで、河川敷の清掃活動を毎月実施することで、吉野川の環境を持続可能なものに保ち、地域住民への啓蒙を図って川と人をつなぐきっかけとする。	○	○	○
19	東朽網校区 まちづくり 協議会	水と緑の美化プロジェクト	福岡県	東朽網の豊かな自然を通して環境の変遷や地域の未来を住民主体で考えていく上で、環境整備とともに大人から子どもまで一緒に学ぶ体験型学習を実施する。活動の目的は、山から海へと繋がる水環境を守り、次世代へ繋ぐことの大切さを共感できる環境意識の高い人づくりを行っていくことである。	○	○	○
20	NPO法人 改革プロジェク ト	Yの字作戦2017	福岡県	釣川の川上から河口までの16キロと玄界灘に浮かぶ2つの離島である大島、地島を結ぶYの字に沿って環境を改善していく。以前は子どもが泳げるほど水がきれいだった釣川も、近年では水が汚れ、ごみが放置されている箇所が目立つ。また2つの離島では海岸に押し寄せるごみが溜まる一方となっている。地域の担い手である若者が主体となり、自らの手で地域の自然を守るアクションを起こしていく。	○	○	○
21	津古ふるさと会 ★	津古の住環境に溶け込 む宝珠川の清流再生と 維持	福岡県	住宅化が進み悪化している宝珠川と周辺の自然環境を改善し、次世代へ繋ぐ。きれいな環境下では投棄ゴミは少ないと言われており、宝珠川を花に囲まれ、水中を泳ぐ魚が見える環境にすることで実現を図る。健康高齢者と子供会の協力を得て、定期的な清掃活動、植花活動、放流活動を実施し、楽しめるボランティア活動にして地域住民の自然環境保護意識を高め、次世代の担い手を育成する。3年後には年5～6回の清掃活動、年1～2回のイベント開催を定着させる。	○	○	○
22	特定非営利 活動法人 水辺に遊ぶ会	生きもの、子ども、自然が 元気な中津干潟みらいづ くり活動	大分県	生物多様性に富む優れた海域として有名な中津干潟は、地元市民の自然環境に対する意識が低く、保全活動への理解が薄いこと、また市民活動の担い手不足が干潟保全の上での将来的な課題となっている。これらを解決するために①一般市民向け実践活動、②子ども向け実践活動、③啓発拠点の充実、④環境学習プログラムの充実、⑤次世代育成の5つのテーマを設けて活動を展開し、干潟環境への理解が増し、保全に向けた気運が高まることを目指す。	○	○	○
23	関の江海岸の 自然を守る会	関の江海岸の自然を守 る会	大分県	別府で唯一天然の砂浜である関の江海岸は、昔、多くの魚介類はもちろん貴重な植物が群生していたが、近年ではその生態が破壊されつつある。海岸に流れ込む温水川のヘドロから出るCO ₂ を除去したり、海岸の漂流物の撤去、雑草の刈り取り等、年間を通じて多くのボランティアの力を借りて環境整備を進め、地域住民の環境に対する意識を高め、美しい関の江海岸にする。	○	○	○
24	NPO法人 おおい環境 保全フォーラム ★	海浜生態系再生プロジェ クト ～命をつなぐ海岸の復活 をめざして～	大分県	大分県最大のアカウミガメ産卵地であった間越海岸は、漁港整備や海砂採取の影響で砂浜が減少したことにより海浜生態系のバランスが崩れ、近年産卵が激減している。そこで防砂垣による養浜活動と海浜植生等の海岸保全活動を実施し、海浜生態系を再生することを目的とし、北部九州有数のアカウミガメ産卵地の復活を目指す。	○	○	○

	団体名 (★：新規)	プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
					2017 年度	2018 年度	2019 年度
25	一般社団法人 日本スキムボ ード協会	ecoプロジェクト宮崎 ～アカウミガメとの共存 ～	宮崎県	宮崎県一ツ葉海岸は全国でも有名なアカウミガメの産卵地である。しかし、近年その頭数は減少傾向にあり、原因は主に漂着ごみにある。子ガメが海に戻る際の障害になり、親ガメの誤飲などにも繋がっている。年間を通して毎月ビーチクリーンを行い、産卵期には孵化した後の卵の殻、子ガメの足跡や産卵、孵化の観察会や青空学習などを開催する。	○	○	○
26	特定非営利 活動法人 みやざき技術 士の会★	山崎川自然リカバリープ ロジェクト	宮崎県	里山を水源とする山崎川は、20～30年前までは流域の水田を潤す川であった。流域には虫も飛び交い、多様な生態系が育まれていた。人口増加により里山は住宅地等に変容し、生態系は貧弱になった。昔の状態に回復するため、多様な技術専門家集団として地域団体と協働して水質・底質改善、草木除去等を行い、流域の生態系の多様化・親水性を高める。	○	—	—
27	特定非営利 活動法人 イカオ・アコ	水源の森を守り、学校・ 地域に水を届けよう	フィリピン	3年間当団体と共に植林活動を行ってきた少数民族のシバト地区(215家族、約1,500人)は、シライ市の水源地に位置しながらも、行政からの支援がほとんど得られず、電気、道路、水道が未整備である。特に生活用水の確保は最重要課題となっている。住民と協働で、電力・燃料を使わない揚水システムと簡易水道を設置し、生活の利便性を高めるとともに、灌漑で有機農業を行い、住民の生計を向上することを目標とする。	○	○	○
28	公益財団法人 プラン・インター ナショナル・ジ ャパン★	ベトナムにおける衛生習 慣改善プロジェクト	ベトナム	ベトナム南部コントゥム省コンプラン県内の最貧困地域の5コミュニティでは、各世帯に衛生的なトイレがなく、衛生習慣の知識がない住民(山岳少数民族)は屋外排泄を行っているため、子どもたちは常に感染症に罹患する危険にさらされている。こうした不衛生な状況を改善するため、衛生習慣を身に付ける参加型トレーニングを行い、ローコスト型モデルトイレを設置することを通じて、住民が自分たちで家庭用トイレを設置し、衛生的な環境を整備することを目指す。	○	—	—
29	World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia	カンボジア農村地域の植 樹活動及び環境教育	カンボジア	カンボジアの農村地域は上下水道の整備がされておらず、井戸や雨水・ため池・川等を利用している。当団体が建設した学校の井戸やトイレも故障や老朽化によって使用できなくなっているところが多い。また1960年代に70%以上あった森林面積は伐採等により大幅に減少している。井戸・トイレの修復を進めるとともに、植樹・苗木作り・清掃活動等・具体的な行動を体験する環境教育を小中学校で行う活動に継続して取り組み、水環境の改善・環境保全の意識向上を促進する。	○	○	○
30	認定特定非営 利活動法人 アジアチャイル ドサポート	「水で支える暮らし」と 「未来へつなげる水環境」	ミャンマー	ミャンマー・チャウンター村落群では、乾季における極度の水不足、水を媒介とした感染症などが深刻な問題となっている。また、屋外での排泄などの不衛生な状況による環境汚染が新たな感染症発症の一因ともなり、悪い循環が解決されずにいる。大型井戸とトイレ(水回り設備)を建設し、設備の維持・管理を村人自ら行えるように指導し、子どもたちには衛生教育を実施することで、約2,250名の村人が安全な水を手に入れ、衛生的な生活を送ることができる環境づくりを目指す。	○	○	○
31	DEEPAK FOUNDATION	農業池とマイクロ灌漑に よる3つの村の水アクセ ス性の向上と緑の環境へ の意識の醸成	インド	工業化が著しく、農地の縮小が進むグジャラート州ハロル・カロール地区3村において効果的な灌漑モデルの実証を行う。農業池を建設し、マイクロ灌漑システムを活用することにより、乾季にも安定した水供給を可能とし、生活用水の確保と作物栽培によって2,000haの緑地化を進める。3村それぞれで村落会議を定例開催し、水の利用・システム活用のためのコミュニティ能力構築訓練を合せて実施することにより、村人が自立して水資源の維持・管理を行うことができるようにする。	○	○	○

	団体名 (★：新規)	プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
					2017 年度	2018 年度	2019 年度
32	特定非営利 活動法人 ウォーターエ イ ド ジ ャ パ ン	インド・テランガナ州農村 部における水質管理・衛 生プロジェクト	インド	水質汚染が深刻で野外排泄が多く行われているインドのテランガナ州ニザーマーバード県・カマレディ県の30村において、水質管理を起点とした水・衛生のアクセス改善に取り組む。当団体と現地NGOが実施する啓発トレーニングによって、住民と村水衛生委員会が主体的に水質検査を実施し、給水設備の改善・設置に取り組むことを目指すほか、水質汚染の原因となる野外排泄の根絶、衛生習慣の普及に取り組む。	○	—	—
33	特定非営利 活動法人 ロシナンテス ★	水衛生改善を通じた、ス ーダンでのコミュニティー 開発事業	スーダン 共和国	スーダンでは水衛生の不備が、健康問題、教育参加機会の減少の根源となっている。井戸および給水所の建設とヘルスプロモーションを通して水衛生環境を改善し、さらに水設備管理能力向上の支援を行うことで、地域のコミュニティー開発を目指す。成果目標として、消化器関連感染症の減少、水汲み労働時間の削減、児童の教育参加機会の増加、雇用の創出、コミュニティー開発を目指す。	○	○	○
34	認定NPO法人 フリー・ザ・チル ドレン・ジ ャ パ ン	ケニア深井戸建設及び給 水システム確立プロジェ クト	ケニア	エシノニ村には現在井戸がないために、子どもや女性たち村人は1日に何時間も費やし、15キロ離れたところまで水汲みを行っている。また、半乾燥地帯であるため乾季には水不足に陥る。そこで、深井戸の新規建設および給水所を村内に設置し、さらに給水システムを村人が自ら運営管理できるよう人材育成・研修を行うことで、エシノニ村に暮らす1,200人の村人がきれいな水を手に入れ、管理する持続可能なしくみを確立する。	○	—	—
35	モザンビークの いのちをつなぐ 会	モザンビーク・ペンバにお ける公衆衛生プロジェクト	モザン ビーク 共和国	慢性的な水不足および公衆衛生知識の欠如により、コレラや細菌感染症による死者が発生し、5歳未満の死亡率が18%にのぼるモザンビーク共和国カーボデルガド州ペンバにて、当会建設の開かれた学舎・寺子屋と小学校で主に子供を対象とした公衆衛生教育を実施する。また住民の水へのアクセス率を高めるべく寺子屋および事務局の給水/浄水設備の整備、浄水器の製作配布を行う。これらの活動により衛生的な暮らしの習慣付けと安全な水の確保を目標とする。	○	○	○